

ヤングケアラー

ヤングケアラーとは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負って、本来、大人が担うような家族の介護（障害・病気・精神疾患のある保護者や祖父母の介護など）や世話（きょうだいの世話など）をすることで、自らの育ちや教育に影響を及ぼしている18歳未満の子どもたちをいいます。

実際に中学生では約17人に1人、高校生では約24人に1人の割合でいるとされています。

2020年度には、子ども本人（中学生・高校生）を対象としたヤングケアラーの全国調査が初めて行われました。世話をしている家族が「いる」と回答したのは、中学2年生5.7%（17人に1人）、全日制高校2年生4.1%（24人に1人）であるなどの実態が明らかとなりました。

【ヤングケアラーはこんな子どもたちです】



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

ヤングケアラー

ヤングケアラーの実態に関する調査結果

(2020年度厚生労働省調査)

【中高生アンケートより】

「家族の世話の有無」と「出席状況」 (単位:%)

		調査数(人)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく欠席 する	無回答
世話をしている家族	いる	660	65.3	17.9	16.7	0.2
	いない	12,568	78.0	10.4	11.6	0.0

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、「たまに欠席する」、「よく欠席する」の割合が高くなっています。

「家族の世話の有無」と「遅刻や早退の状況」 (単位:%)

		調査数(人)	ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
世話をしている家族	いる	660	73.2	22.1	4.5	0.2
	いない	12,568	85.8	11.5	2.6	0.1

世話をしている家族がいる場合、いない場合に比べて、遅刻や早退をする割合が高くなっています。

ヤングケアラー

「家族の世話を有無」と「普段の学校生活等であてはまること」

ふくすうかいとう (複数回答) (たんい：%)

		調査数 (人)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題が出来ていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
世話をしている家族	いる	660	33.6	22.6	20.2	9.1	23.0	2.4	3.3	12.0	11.1	40.6	1.5
	いない	12,568	28.0	15.1	12.6	4.9	14.5	1.2	1.0	6.8	7.0	51.7	1.5

世話をしている家族がいる場合は、いない場合に比べて、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」、「授業中に居眠りすることが多い」が高くなっています。

ヤングケアラー

「家族構成」と「父母への世話の内容」

(単位：%)

	調査数(人)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
二世帯世帯	99	71.7	12.1	29.3	6.1	23.2	19.2	7.1	13.1	7.1	0.0	11.1
三世帯世帯	23	65.2	17.4	30.4	8.7	17.4	17.4	13.0	21.7	13.0	8.7	8.7
ひとり親家庭	46	76.1	8.7	30.4	6.5	17.4	17.4	4.3	8.7	4.3	2.2	17.4

<父母への世話の内容>では、ひとり親家庭では、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が高くなっています。

さらに、現在の悩みや困りごとについては、「学校生活に必要なお金のこと」「家庭の経済的状況のこと」「自分と家族との関係のこと」「病気や障害のある家族のこと」等があげられます。ヤングケアラーにとって、家族の世話が日々の生活に影響を与えていることが伺えます。



ヤングケアラー

厚生労働省は、2021年度に、大人に代わって家族の世話や介護している「ヤングケアラー」について、小学生に調査を行いました。

その結果、6年生のおよそ15人に1人が「家族の世話をしている」と答えたことが分かりました。

【小学生アンケートの主な調査結果】

- ・「家族の世話をしている」と回答した小学生は6.5%。世話を必要としている家族は「きょうだい」が最も多く71.0%、次いで「母親」が19.8%。
- ・世話を必要としている人が「父母」と回答した人に父母の状況を聞いたところ、「わからない」との回答が33.3%と最も高かった。父母が病気や障害を抱えていても、そうした状態について子どもに話していなければ、子ども自身は状況がよくわからないまま家族の世話をしている可能性がある。
- ・家族の世話をしている小学生のうち、就学前から世話をしている人が17.3%、低学年のうちから世話をしている人が30.9%いる。

ヤングケアラーが早期に発見され、

適切な支援につながる社会を実現するためには、

私たち一人ひとりが当事者の置かれている

状況を理解し、その気持ちを尊重できる知識を

身につけることが重要です。

